

2013/05/31

中野 実

中国の一般家庭

先日、私の通訳の女性（25歳）の家に食事に招待してもらいました。

以前に日本のお土産を上げたお礼と言うことも有り中国の家庭料理を食べさせてあげると言うことで昼食に呼ばれた次第です。

彼女の家の家族構成は、両親と彼女の3名で全ての方が仕事を持っています。家庭の収入としては、家族3名が働いていて上海では並という感じです。上海の普通の家とは、一戸建ては無くほとんどがマンションであり彼女の家も5階建の5階にある90平米程度の2LDKプラス書斎です。築10年ほどですが、2年前に内装をやり直したそうで部屋の中は綺麗になっていました。

部屋の構成は、リビングは6畳、キッチン2畳、バストイレ2畳、ベッドルームは6畳程度の部屋が2つと5畳程度の書斎で構成され、玄関と廊下はリビングの一部として兼用されています。キッチンは、中華料理は油を使用する料理が多いせいか食卓テーブルの部屋とはガラス戸で区切られています。

中国のマンションと日本のマンションを一概に比べるのは難しいですが過去に幾つかの中国のマンションの部屋を訪問して感じたのは中国のマンションの部屋の装飾の方が豪華でお洒落に感じます。室内装飾で一番異なるところは、照明器具とか壁自体の装飾そしてテレビを乗せるテーブル等は日本のマンションよりも映える装飾がされていて中国人の方が室内装飾に関しては日本よりも上手い感じがします。それに比べると日本のマンションとか家の中の装飾は、生活主体の場所であり人に見せる意識が少ないのか少し地味に感じます。

ご馳走になった食事内容は、豚の角煮、牛肉の骨付き甘煮、クラゲの炒め物、ニラと卵の炒り付け、サヤエンドウの炒めもの、キュウリの炒め物、トマトと卵のスープ等でなかなか豪勢で美味しい料理でした。食後の果物は、スイカ、パイナップル、サトウキビ等がありおいしん坊の私でも食べきれない料理が出されていました。サトウキビとは直径4cm程度のサトウキビの皮が剥いてあり30cm程度の長さに切ったものを歯で噛みちぎりムシャムシャ噛むと甘い砂糖の味がしてきます、そのうちに甘みが無くなればゴミ箱にペッと吐き捨てます。

当日は、彼女の婚約者が来ていてその婚約者が色々料理を作ってくれなかなか美味しい料理で有り腕は悪くありませんでした。中国では、女性は結婚しても仕事を持ち男女平等の社会なので男性が家事を分担するのが普通のように専業主婦というのは少ないです。

子供が出来れば、出産前後の休暇は合計で3ヶ月程度休めますが日本よりも相当短くその後の子供の面倒を見る役目は夫の母親が行うのが普通です。

尚、上海の女性は気が強い事で有名で家庭の実権はほとんど女性が握っているのが一般的のようです。彼女は非常に易しい性格の持ち主ですが、彼氏である男性は彼女にメロメロなので将来の家庭は間違いなく婿天下の方向に進むのは間違い有りません。

又、中国で多く見られる 6 階建て迄のマンションの多くはブロックで作られていて鉄筋コンクリートに比べると総じて耐久年数は低いようです。

ブロック作りでは、10 年～15 年も経てば外壁にひび入りやすくなりヒビの箇所が黒くなるので見掛けは古く感じられます。

昨年 2012 年に浙江省の寧波で築 15 年ほどの 5 階建てのマンションが潰れた事件がありこの程度の年数で壊れるのは違法建築の疑いがあるということで調査をするという記事が出ていました。しかし、ブロックにより建てられたマンションは築 10 年も経つと古く見え、特に手抜き工事が有れば崩壊する可能性は十分有ると考えられます。

しかし、現在の上海で建設中のマンションについては大半が 20 階から 30 階建ての鉄筋コンクリート建てなので丈夫と思います。